



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

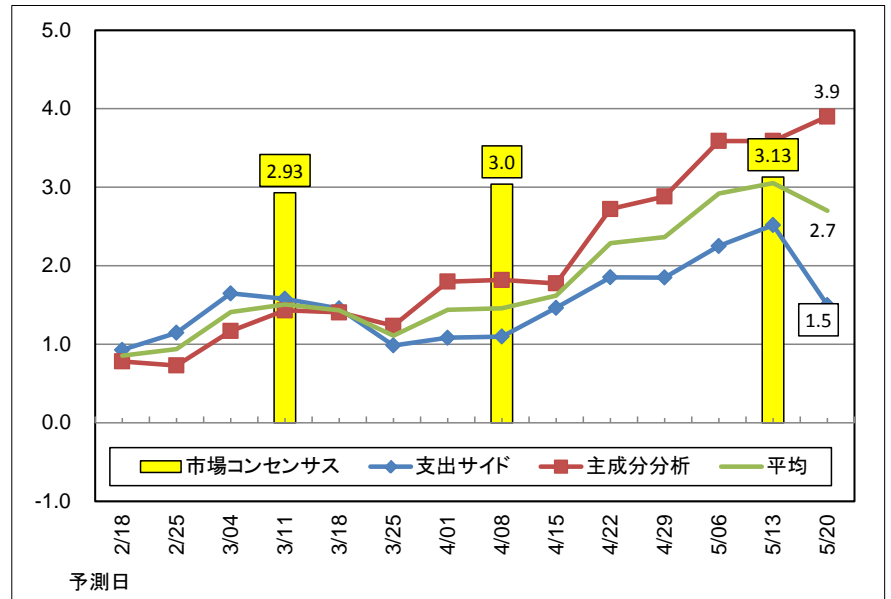
内容に関するお問い合わせは下記まで  
e-mail:inada-y@apir.or.jp

# 日本経済(週次)予測(2013年5月20日)

## ポイント

- ▶GDP1 次速報値によれば、1-3 月期の実質 GDP 成長率は前期比年率+3.5%。2 期連続のプラス成長となり、伸びは前期(+1.0%)より加速。
- ▶実績は市場コンセンサスや CQM 予測(支出サイド)から上振れた。
- ▶CQM の 1-3 月期予測動態を振り返ると、最終週における成長率予測は、支出サイドが+2.7%、主成分分析が+4.4%、予測平均値が+3.6%となり、予測平均値は実績にピンポイントとなった。
- ▶新たなデータを更新した今週の CQM(支出サイド)は、4-6 月期の実質 GDP 成長率を、内需の増加幅は拡大するが、純輸出は横ばいとなるため前期比年率+1.5%と予測する。先週の予測から下方修正である。
- ▶4-6 月期成長率については市場コンセンサスと主成分分析モデル予測は高いが、支出サイド予測は低い。
- ▶今後成長率が上方修正されるポイントは、補正予算効果の出現と純輸出の拡大である。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率  
2013年4-6月期(%, 前期比年率換算)



### <4-6 月期の成長率は支出サイドが+1.5%と低いが、上方修正のポイントは補正予算の効果と純輸出の拡大>

先週(5/13-5/17)は4月の国内企業物価指数、輸出入物価指数、消費者態度指数、3月の毎月勤労統計(確報値)、鉱工業生産指数(確報値)、第3次産業活動指数、機械受注、情報サービス業売上高及び建築総合統計が更新された。また1-3月期のGDP1次速報値が発表された(5月16日)。

GDP1次速報値によれば、1-3月期の実質GDP成長率は前期比年率+3.5%(前期比+0.9%)となった。2期連続のプラス成長で、伸び率は前期(前期比年率+1.0%)から加速した。市場コンセンサス(ESPフォーキャスト5月調査:同+2.90%)やCQM予測(支出サイド:同+2.7%)から上振れた。CQMの1-3月期予測動態を振り返ると、最終週(5月13日)における成長率予測は、支出サイドが同+2.7%、主成分分析が同+4.4%、予測平均値が同+3.6%となり、実績は予測平均値にピンポイントとなった。CQM(支出サイド)の需要項目別予測パフォーマンスを見ると公的固定資本形成が過大予測となる一方で、輸出の予測が予想以上に下振れたが、民間需要では支出ウェイトの高い民間最終消費支出の予測のパフォーマンスは良好であった。

1-3月期GDP1次速報値を追加し先週発表された月次データを更新した今週のCQM(支出サイド)は、4-6月期の実質GDP成長率を、内需の増加幅は拡大するが、純輸出は横ばいとなるため前期比年率+1.5%と予測する。先週の予測(+2.5%)から下方修正である。4-6月期成長率の市場のコンセンサスは+3.13%、CQMの主成分分析予測は+3.9%と高いが、支出サイド予測は現時点では低い。今後支出サイドの成長率が上方修正されるポイントは、補正予算効果の出現(公的固定資本形成)と純輸出の拡大が重要である。まずは22日に発表される4月の貿易統計の結果が興味あるところである。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。  
 ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。  
 ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 [contact@apir.or.jp](mailto:contact@apir.or.jp) 06-6441-0550